

古民家活用事業の進捗状況（古戦場公園再整備との整合性）について

1 事業概要

古民家の再生利用可能な部材を使い、この地域のくらしや歴史文化を伝える歴史民俗体験施設として、古戦場公園の西側ゾーンに整備します。

2 事業の進捗

令和元年度に古民家補修等工事（9,195,040円）と古民家詳細調査業務（2,585,000円）を行いました。なお、当初、古民家を文化財として、現地で保存することとしていましたが、登録時と同じ建物を復元する必要があり、多額の費用が必要となるため、国登録有形文化財の申請をしないこととしました。

3 古民家詳細調査の結果（資料1、2参照）

本古民家は、江戸時代後期、尾張、三河地方に見られる鳥居建て構造を持つ貴重な民家建築です。一方で、長年の雨漏り、蟻害による腐食が進み、建物全体としての健全性は大変低い状態となっており、建物全体を保存することは困難な状態となっています。

しかし、本古民家は、愛知県を代表する民家形式を持つ建物です。そのため、県内における代表的な民家形式である鳥居建て構造を後世に残すためにも、鳥居建て構造の部材及び接続部の部材を再利用することとし、その他は、新材とすることが望ましいとの結論に至りました。

4 古戦場公園再整備との整合性（資料3参照）

平成28年度に策定した古戦場公園再整備基本計画では、西側ゾーンに古民家を歴史民俗体験施設として整備し、長久手の歴史民俗資料の展示や体験施設としての役割を担うこととなっています。また、東側ゾーンには、「小牧・長久手の戦い」や「長久手合戦」に関する展示を行うガイダンス施設を整備する計画となっています。

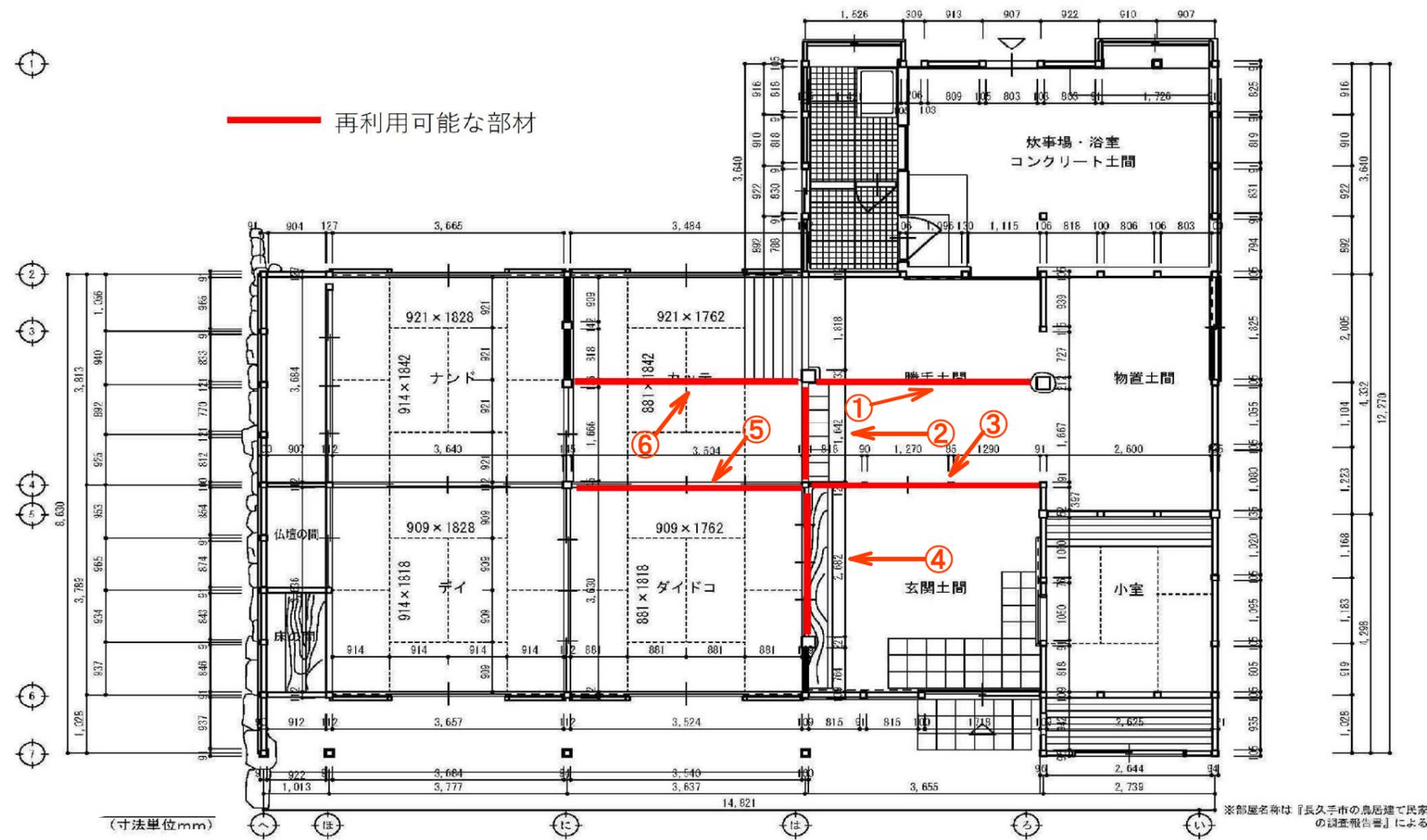
なお、古戦場公園整備基本計画では、古戦場公園再整備とは、西側ゾーン及び東側ゾーンの整備を含めた公園全体の整備であるとされていることから、古民家活用事業は、歴史民俗体験施設の一部を担うものであり、古戦場公園再整備と整合が図れています。

5 今後の予定

- (1) 令和2年度 歴史民俗体験施設等基本設計（予算額8,855千円）
- (2) 令和3年度 歴史民俗体験施設等実施設計
- (3) 令和4年度 整備工事

令和元年度古民家詳細調査 再利用可能部材調査図

資料 2



古戦場公園再整備事業鳥瞰図

資料 3



歴史民俗体験施設拡大図